

中国語教育における語彙シラバスの作成原則に関する研究

——*Roget's Thesaurus* からの示唆を中心に

楊 帥可

要旨：語彙シラバスは学習目標を定め、教材と学習辞書の編纂の範囲を示し、言語能力の学習到達度を測定するものである。既存の語彙シラバスは使用頻度調査と専門家による人的操作に従い、編集されるものである。しかし、この原則にはいくつかの問題も存在している。それゆえ、新しい視点から語彙シラバスの作成原則と方法を考え直す必要があると思われる。本稿は語彙教育における語彙の「広さ」と「深さ」という角度から、語彙の意味体系を全面的に把握したうえで、*Roget's Thesaurus of English Word and Phrases*, (1852)及び中、日シソーラスの分析を通して、学習者向けの中国語教育における語彙シラバスを作成する新しい方法を検討するというものである。

キーワード：第二言語教育、語彙シラバス、シソーラス

○ はじめに

学習者向けの中国語教育における語彙シラバスは学習の目標を定め、教材と学習辞書の編纂の範囲を示し、言語能力の学習到達度を測定するものである。既存の語彙シラバスは使用頻度調査と専門家による人的操作に従い、編集されたものである。まず一定規模の語彙の使用頻度、カバー率を調査し、その結果を使用頻度が高いほうから低いほうへ排列するという方法で順番を付ける。ある使用頻度を超えた語彙を語彙シラバスの候補語彙として扱う。最後に外国語教育の専門家の意見やアドバイスにより、語彙量を修正、補充する。このような原則と方法に基づき、作成された語彙シラバスにはいくつかの問題点があると考えられる。このため、李英(1997)、趙金銘等(2003)、馬清華(2008)、張博(2015)は既存の語彙シラバスに存在する問題について価値ある検討を行った。言語教育の目的は学習者に一定期間内にコミュニケーション能力を身につけさせることである。コミュニケーション能力を獲得するには数多くの語彙が不可欠だと考えられる。しかし、第二言語教育は授業時間と空間に制限されるため、学習者にとって最も合理的な語彙範囲を定めなければならない。言語教育とコミュニケーションの間で矛盾が生じるため、語彙シラバスに収録されている語彙ではまったくコミュニケーションを行うためには満足できるものではないと考えられる。語彙シラバスのサイズによる制限は言語活動、教材の編集、教授内容の選択にも影響を与える。しかし、盲目的に語彙シラバスのサイズを増やすのは、

学習者に負担をかけることにしなければならない。この問題をどのように解決すればよいのだろうか。どのようにすればより効率的に中国語を習得できるのか。語彙教育の新しいルートはあるのか。これらに対して、本研究では語彙の意味体系を全体的に把握するという新しい視点から、*Roget's Thesaurus of English Word and Phrases* (以下「*Roget's Thesaurus*」と略称する。)及びその後に掲載されたシソーラスを参考に、中国語語彙の特徴に合わせながら、教育用語彙シラバスの作成方法を検討していく。

一、語彙の広さと深さ

外国語を勉強するには、出来るだけ多くの単語を覚えなければならないことは自明のことである。語彙量が言語能力の重要な指標となっている。多くの学習者は聞き取れない、話せない根本的原因を語彙量不足に帰している。では「量^{サイズ}」というのとは一体何であるのか。これは単に見出し語 (entry) の数であるのか。沈国威 (2014)¹は語彙教育の視点から、語彙の「量^{サイズ}」について、以下のような解釈を提示した。語彙の「量^{サイズ}」に関する評価は、次の二つの異なる解釈ができると思われる。一つは、ある言語使用者が様々な物・事、動作、状態を表す語を多く知っている事である。もう一つの解釈は、ある言語使用者が同一の物・事、動作、状態を表現するのに異なる語を多く知っていることである。仮に前者を語彙の広さと呼ぶならば、後者は語彙の深さと呼ばれる²。例えば、中国語の家族、親族の言い方について“爸爸、妈妈、爷爷、奶奶、姥姥、姥爷、姑姑、婶婶、叔叔、舅舅、丈夫、妻子……”を知っている者は“父母兄弟姐妹”しか知らない者より、語の範囲が広いことになり、また「妻子」を表す語として“老婆、妻子、太太、夫人、媳妇、孩子他妈、内子、拙荆……”まで知っている者は、“老婆”しか知らない者より語の奥行きが深いということである。つまり語彙の広さは異なる物・事を表す語の数で、広ければ広いほど、いろいろな物・事、状態、事件を表現することができる。対して、語彙の深さは深ければ深いほど、微妙なニュアンスを区別できる。また具体的な場面、文脈、状況に応じてよりふさわしい語を選ぶ能力を身につけることができる。表現の自由度は語彙の「広さ」と関係があり、表現の精確さは語彙の「深さ」と関係がある (参照沈国威 2014)。

人の語彙力が語彙の「広さ」と「深さ」で構成されるとすれば、母語話者と学習者に対する語彙能力の評価基準は違うと考えられる。母語話者にとって、「語彙が豊富」というのは語彙

¹ 沈国威, 2014, 『汉外词汇教学新探索』, 関中研, 5-6 ページ。

² Richards (1976)、Nation (2001) による語彙知識は二つのポイントを含めている。その一つは語彙の広さ (breadth) であり、語彙の意味を中心とする語彙の数 (size) のことを指している。もう一つは語彙の深み (depth) であり、ある単語に関する異なる意味、隠喩、上位語、下位語、使用率、適用範囲及びほかの単語との組み合わせることなどに対して了解する程度のことである。これは本稿の語彙の「量」と「質」という概念は別のことである。

の「深さ」のことを指している。学習者、特に初級・中級レベルの学習者にとって、「語彙が豊富」というのは、語彙の「広さ」を指している。外国語学習には“由浅入深、循序漸進”「易しきより難しきに入り、順を追って徐々に漸進する」という原則がある。学習者にとっての語彙学習を考えるならば、初級階段の主な課題は語彙の広さを拡大することである。一定の広さがなければ表現上の自由がない。中級・上級になると、学習者は語彙の深さを意識的に拡大することが必要となる。「広さ」と「深さ」という概念はこの原則にふさわしいと考えられる。

二、シソーラスによる示唆

シソーラスは類義語辞典の一種である。単語の上位 / 下位関係、同義関係、類義関係などによって単語を分類し、体系づけたものが類義語辞典である。シソーラスにおける各分類は異なる物事、動作、状態の名称を表す語彙の「広さ」だと考えられる。語彙グループの各単語(理論上)は同じ物事の異なる名称であり、語彙の「深さ」だと考えられる。

シソーラスという形式は語彙の「広さ」と「深さ」を反映するので、学習者に全面的な語彙の意味体系を提示することができる。しかし、既存のシソーラスは主として母語話者向けのものであって、学習者向けではない。こういった辞書が直接的に第二言語教育に応用できるかどうかを検討してみたい。以下で英語、日本語、中国語の典型的なシソーラスの意味体系と語彙の収録状況について分析し、第二言語教育に応用可能かどうかを検討していく。

Thesaurus of English Word and Phrases 1852年、イギリス人の Peter Mark Roget (1779-1869) は作家や翻訳者に最も適切な言葉を提供するために、同義語と類義語を分類した辞書を出版した。これが *Thesaurus of English Word and Phrases* である。Roget の *Thesaurus* は広く愛用され、現在でも再販されている。そしてこの *Thesaurus* という単語が類義語辞書の代名詞にもなっている。*Roget's Thesaurus* は語彙の意味によって分類し、英語の意味体系を構築している。

Roget's Thesaurus の編纂目的は

作文に悩んでいる人々に援助を提供することである。本書の各主題も読者に豊富な語彙と文節を提供し、すべての関係する意味と修辭に適用する。読者は目の前に提示された豊富な語彙の中から自分の思いに合う語彙表現を選択できる。もし、このような辞書がなければ、理想的な表現方法をどうしても思いつかないということになってしまうかもしれない。読者は単語を選択する際、細かいところまで類義語を研究しなくても構わない。信頼できる資料があれば、読者は直感で適切な単語を選べばよいと考える。³

³ C.O.S Mawson 1911 《*Roget's Thesaurus of English Words and Phrases*》, THOMAS Y.CROWELL COMPANY, p.9

編集目的から見れば、*Roget's Thesaurus* は母語話者にとって、翻訳や作文の際、適当で、より適切な表現を選び、また同一表現の単調な繰り返しを避けるために用いるのである。初版には15,000の用語が収録されている。収録語彙を見てみると、読者のためにいくつかの廃語も収録し、関連説明を付けている。また、俗語や専門用語も収録し、関連説明を付けている。地域性を考慮し、アメリカ特有の語彙も収録し、文節と引用語の作者を記録している。読者に豊富な語彙を提供するため、辞書は読者の使用から出発し、非標準語も収録している。

Roget's Thesaurus の分類体系を見てみよう。*Roget's Thesaurus* は語彙を6種類と1,000の語彙グループに分けている。即ち：

1. 物事の一般的な関係或いは抽象的な関係を表す語彙。例えば：存在、類似性、数量、語順、数字、時間、力など。
2. 空間及び各関連関係、動作と移動を表す語彙も含む。
3. 物質世界の関連概念（固体、液体、熱、音、光）及びこれらによる現象と感覚を表す語彙。
4. 智力と智力応用の関連概念。思想の獲得、人間の交流を表す語彙を含む。
5. 人間の意志による関連概念。意志力や活動能力を表す語彙を含む。例えば：選択、意図、効用、行動、対抗、権利、相談など。
6. 情感と道徳。感受、感情、熱意、道徳と宗教的感情を表す語彙を含む。

語彙グループの排列は、対義関係と関連用語間の関係をはっきりと提示するため、これらの語彙を同一ページに二列に並べて配置し、対照できるようになっている。関連用語がなければ、二列目は設定されていない。

例えば：ORDER（順序）分類体系

ORDER（順序）	
1.GENERAL（普遍）	58.Order（順序） 59.Disorder（無秩序）
	60.Arrangement（整理する） 61.Derangement（混乱的）
2.CONSECUTIVE （連続）	62.Precedence（優先） 63.Sequence（連続）
	64.Precursor（前兆） 65.Sequel（結果）
	66.Beginning（開始） 67.End（終了） 68.Middle（中間）
	69.Continuity（連続） 70.Discontinuity（非連続）

	71.Term (期限)
3.COLLECTIVE (集合)	72.Assemblage (集まり) 73.Nonassemblage (解散) Dispersion
	74.Focus (焦点)
4.DISTRIBUTIVE (配分)	75.Class (類別)
	76.Inclusion (包括) 77.Exclusion (排斥)
	78.Generality (普遍) 79.Speciality (特別)
5.CATEGORICAL (範疇)	80.Rule (規則) 81.Multiformity (多様性)
	82.Conformity (一致する) 83.Unconformity (異なる)

このような意味の分類体系は語彙を対立的な形式で統合することができ、対応的な関係を構成することができる。しかし、この体系には欠陥もある。現実世界では二つの対義語には中間的な意味を表す語彙も存在する。例えば：

Identity (一致する) Difference (異なる) Contrariety (反対)

Beginning (始まり) Middle (真ん中) End (終わり)

Past (過去) Present (今) Future (未来)

このシソーラスは言語教育のことを配慮していないため、学習者にとって次のような欠点が存在すると思われる。一つには、語彙の分類体系があまりにも抽象的すぎて、理解しにくいこと。二つには、語彙の分類は母語話者であれば語感や文化を通して、分類根拠が理解できるかもしれないが、学習者にとっては理解しにくいものになっていること。例えば、「Lion (ライオン)」は「Courage (勇気)」の分類枠に入っているが、なぜかという、母語話者にとって「Lion (ライオン)」には「Courage (勇気)」のイメージがあるためである。また、「Anchor (錨)」は「Hope (希望)」という象徴的な意味を持っているため、「Hope (希望)」という意味を表現することができる。「Fickleness (常に変わること)」という分類枠には「Butterfly (蝴蝶)」、「Weathercock (風見)」、「Irresolution (不決断)」が含まれている。三つには、この辞書には廃語、専門用語、方言及び俗語が収録されているが、第二言語教育の場合、このような語彙は教育用語彙リストに収録する必要はないと思われる。

『分類語彙表』は日本国立国語研究所が *Roget's Thesaurus* 及びさまざまな分類体の語彙一覧表や辞書を参考にして、1964年に出版した辞書である。初版の『分類用語集』は最初に語彙を4類に分けている。すなわち1.体の類、2.用の類、3.相の類、4.その他の類である。体の類

は、名称を表す語で、名詞のグループである。用の類は存在・活動を表す語で動詞のグループである。相の類は状態を表す語で形容詞・形容動詞・副詞・連体詞のグループである。その他の類は、一部の副詞、接続詞、感動詞である。

体・用・相の各グループの中に、大きな意味的まとまりとして、「抽象的關係」「人間活動の主体」「人間活動一精神及び行為」「生産物と道具」「自然物および自然現象」という 5 つの部門が設けられている。ただし、用・相のグループは、「人間活動の主体」「生産物と道具」の部門を欠く。部門は、小数点以下 1 桁目の数字で表される。

以下⁴のように分類されている。

1 名詞	2 動詞	3 形容詞
1.1 抽象的な関係	2.1 抽象的な関係	3.1 抽象的な関係
1.12 存在	2.12 存在	3.12 存在
1.1200 存在	2.1200 存在	3.1200 存在
1.1210 出沒	2.1210 出沒	3.1210 出沒
1.1211 発生・復活	2.1211 発生・復活	
1.1220 成立	2.1220 成立	3.1230 必然性
1.1240 保存	2.1240 保存	
1.1250 消滅	2.1250 消滅	
1.1251 除去	2.1251 除去	

『分類用語集』（元版）に収録されている 32,600 の語彙は 798 項に分類される。即ち、798 の類義語の語彙グループがあるということである。2003 年、『分類語彙表』の増補修訂版が出版され、収録語彙は 79,518 に増加した。新語と慣用文のほか、同じ概念の異なる派生形式も増加した。例えば、学習/学習するといったものだ。分類体系には中項目が追加された。項目数も 895 に増加した。語彙の採用範囲から見れば、『分類語彙表』は主に現代の日常社会で普通に用いられる語を中心に収録している。Roget's *Thesaurus* と違い、専門用語、古語、方言、忌み言葉などは収録されていない。『分類用語集』（増補修訂版）では慣用句を増補した。慣用句は文法により各分類に収められている。『分類用語集』は同じ見出し語を合併すれば、535 の分類となる。語彙グループが 535 しかない修辭辞書というのは、やや不十分と思われる。

『分類語彙表』のはじめにの部分には、シソーラスの役割について紹介している。

1. 表現辞典、詞藻辞典としての役割である。すなわち、会話や作文の際、適当な、またはよ

⁴ 国立国語研究所 2004 『分類語彙表』（増補修訂版） p.19

り適切な表現を選び、また同一の表現の単調な繰り返しを避けるために用いられるのである。

2. ある種の方言辞典にその試みがあるように、方言の分布や命名の変遷を知る手がかりとしての役割である。
3. ある個人またはある社会の言語体系もしくはある言語作品について、表現上の特色を見る物差しとしての役割である。
4. 基本語彙設定のための基礎データとしての役割である。一国語の基本語彙は、生活上のまたは意味上の各分野から、最も適切な単語を選ぶことによって、定められなければならない。そのためには、表現されるべき世界、意味の全分野が、偏りなく余すところなく見渡されなければならない。⁵

上記の3番と4番から示唆を得ることができる。語彙教育は意味体系のもとに行われるべきだということが分かる。まずは、基本語彙を学習すべきである。なぜなら基本語彙は各範疇の中で最も典型的な単語であるからだ。次に、基本語彙に基づき、関連語彙を学習する。『分類語彙表』の主な目的は語彙の研究である。しかし、535種類では言語研究にとっても、言語教育にとっても、まだまだ不十分であると考えられる。

1983年、上海辞書出版社はイギリス、日本、ドイツなどのシソーラスを参照し、中国語の特徴に合わせた『同義詞詞林』を出版した。当該辞書は中国で初めての現代中国語を中心としたシソーラスである。7万の語彙を収録し、大、中、小という3レベルに分けている。全ての語彙を12の大分類(人、物、時間、空間、抽象的な物事、特徴、動作、心理活動、現象と状況、関連、助詞、敬語)、94の中分類、1,428の小分類に分けてある。小分類されたそれぞれの語彙は意味の関連性によって、同義類聚語群にグルーピングされている。最後に3,927の語彙グループに分けている。『詞林』は三分類のように見えるが、実は見出し語の表記から見れば、五分類となる。第三級分類の場合、若干の語彙を意味別に編集してから、同類語彙の中の同義語を集めて、見出し語を選定する。見出し語は第四級の分類と見なされる。見出し語に属する語彙は語義のゆれによって「段」というレベルで排列できる。「段」は第五級分類となる。同じ「段」に属する語彙を排列する際、「1. 語義のニュアンス、2. 修辞色彩や使用範囲の違い、3. 語彙構造の差」⁶という3ポイントがある。従って当該辞書は12の大分類、94の中分類、1,428の小分類(見出し語の語彙グループ)、3,927の語彙グループ(見出し語)と約11,000の段で構成されている。

『詞林』の見出し語は語彙体系の「量」を表し、見出し語に属する同義語グループは語彙体系の「質」を表している。『詞林』の意味分類体系を中国語語彙教育に応用することができ

⁵ 国立国語研究所(1964)『分類用語集』, 国立国語研究所 p.4.

⁶ 梅家駒等. 編纂汉语类义词典的尝试:《同义词词林》简介. 辞书研究, 1983(1).

ば、有限の語彙量で最大限に活用することができるのではないだろうか。しかし、『詞林』もまた完璧な辞書だとは言えない。

『詞林』には7万の語彙が収録されており、その中には、現代語のほかに方言・古語・専門用語も収録されている。学習者用の語彙リストには語彙の収録量に制限があり、主として現代語で構成される。方言・古語・専門用語などの語彙は学習者にとって当面は身につけなくてもいいものである。従ってこのような語彙は学習者用の辞書には収録しなくてもよいだろう。

『詞林』には非日常用語も多く収録されている。例えば曜日を表す「日曜日、月曜日、水曜日、木曜日……」などの語彙もある。こういった一部の母語話者さえも知らない語彙は、もちろん学習者にとって学習する価値はないと思われる。また、語彙グループの見出し語にも問題がある。例えば、「鰥寡孤独」、「瓮中之蟹」、「美男子」のようなフレーズやイディオムは見出し語としてあまり適切ではなく、当範疇の典型的な語彙だと認められないはずである。『詞林』における見出し語である「学习」で検討すれば、語彙の利用率からも、中国語の語彙構造の角度からも、「学」は「学习」より典型的で、見出し語として適切だと思われる。名詞類の見出し語は上下関係により、簡潔化することができる。例えば、見出し語「別荘」、「公館」を「建筑」のグループに収め、「刀」、「剪」、「斧」、「刃」などの見出し語は「工具」に収めればよいと考える。見出し語「飾物」は「首飾」と合併すべきである。その他、半自由形態素と拘束形態素である見出し語は、音節の変化或いは特別な言語環境のもとでしか使用できない。例えば、「僻壤」、「剪」、「斧」、「立」、「子」、「女」など。『詞林』には非常用語で見出し語として使用される場合もある。例えば、「淬火」、「烧藍」、「慢郎中」、「夜游神」、「投机商」、「殿后」など。その中には専門用語もあれば、使用率が低い語彙もある。従って『同義語詞林』の分類体系を改良することによって、中国語教育に応用することができるだろう。

三、理想的な中国語語彙シラバス

以上のことから既存のシソーラスは言語教育に適していないことが分かった。では、外国語学習者に適したシソーラスとはどのような形であるべきなのか。シソーラスの形式で作成する語彙シラバスは語彙サイズ、採用範囲、見出し語から考慮すべきである。

語彙サイズと言えば、『分類語彙表』は32,600の語彙が、増補修訂版は79,518の語彙が、『同義語詞林』は7万あまりの語彙が収録されているが、これらは学習者にとって、膨大すぎると言える。第二言語教育用の語彙リストのサイズは5,000-12,000くらいである。⁷しかし、翻訳、作文などの作業を考えれば、言語表現を精確で豊かにし、文をより活発で変化に富むようにするためには一定の語彙量が必要である。このため、学習者用の類義語辞書の語彙量は25,000-30,000の範囲で設定すればよいのではないかと考えられる。これくらいの語彙量であ

⁷ 『漢語水平詞彙与漢字等級大綱』(2001)は8,822語、『漢語国際教育用音節漢字詞彙等級劃分』(2010)は11,092語、『新漢語水平考試大綱』(2010)は5000語が収録されている。

れば学習者が選択できる豊かな語彙を提供することができる。

語彙の採用範囲については、『詞林』には語素も成語もある。つまり、語彙の収録基準が異なることが分かった。語彙体系の角度から考えれば、『詞林』は先見性に富んだ辞書である。中国語の語彙体系は複雑である。語彙体系では、最小の単位は形態素である。イディオム⁸でもある。形態素は語を構成することができる。語と慣用語と一部の成語の間で、意味上の関係を持っている。例えば、碰釘子=挫折、爱不释手=喜爱、恨之入骨=恨というような形となる。学習者はどのようにこれらの異なる単位を覚えるのか。『詞林』における「恨」というグループに以下の単語が含まれている。

【 恨 】

恨 怨 仇恨 怨恨 憎恨 恨之入骨 反目成仇 仇人相见, 分外眼红……

学習者は見出し語「恨」に基づき、形態素「怨」と成語「恨之入骨」の意味を理解することができる。そして、形態素と語、語と語義との対応関係を構築できる。中国語の語彙体系における形態素、語彙、イディオムを一体として考え、対照的な関係を構築して語彙を学習することは、学習者にとって大変役立つと考えられる。語彙の選択に関しても多くの選択肢を学習者に提供できると考えられる。普通の叙述であれば、見出し語の「恨」で表現すれば十分である。「恨」と同じ意味を二音節語で表現する場合には、「仇恨」や「怨恨」を選択できる。恨みの程度を述べる場合には、「恨之入骨」、「仇人相见, 分外眼红」などの言葉を選択すればよいのである。つまり、ある条件のもとで、語と語の間で「言い換え」が可能となる。そして、言語表現も豊かになる。同じ概念を多角的に叙述する語彙を同じ枠に入れ、見出し語のもとに語義体系として構築する。この体系を使って語彙を学習すれば、大変効率的だと予想できる。そのためには教育用のシソーラスには、現代語のほか、一定以上の慣用語と成語も収録すべきである。

名詞、動詞、形容詞は意味体系の特徴が異なっているので、それぞれの特徴に応じて見出し語を選ぶべきである。物事の内容を表示する名詞は語彙の収録量に制限されるので、膨大な類義語グループを構成できないと思われる。それゆえ、上位と下位の関係で調整すべきである。行為を表現する動詞と状態、性質を表現する形容詞は言葉の構造、語義、語用などの方面においてそれぞれ特徴がある。その特徴に応じて適切な見出し語を選ぶべきである。中国語語彙の特徴に合わせてどのように適切な見出し語を選ぶかが、今後の課題となる。我々(関西大学沈国威研究室)は現在、学習者向けの中国語語彙シラバスを作成している。中国語語彙教育にとって、このような語彙シラバスは新しい試みである。中国語の意味体系の角度から、中国語語彙教学と中国語語彙の特徴に合わせて、学習者の参考となる体系を提供する。学習者はこの体系をもとに、

⁸ イディオムは慣用語、成語、フレーズを含む。

語彙を学習し、マスターできる。見出し語と類義語グループは、語彙教育とコミュニケーションとの矛盾を解決することができる。語彙の意味体系の特徴に基づいて作成されるシラバスは学習者にとって中国語語彙の習得に非常に役立つと考えられる。